

法は目の荒き布を以て囊を作り之れに押し潰した製蠟材料を入れ其口を固く結び而して之れを熱湯中に入らるゝのである然れば蠟は自然に溶解して囊中から滲出して水面に浮び出たやつを七にて掬ひ採り徐々に冷定すると凝結した蠟餅となるのである併し此法は簡易なる丈出来上た品質は餘り善良でないから自己の飼養場で基礎を製したり或は品質善良なる蠟を得んには日光若くは蒸氣製蠟器を使用した方が宜しいのである

日光製蠟器を用ゆるには日當りの尤も善良なる處を撰び器を据付け而して其中に蜜蓋及窠脾の断片等を金網の濾器上に投入し適宜に硝子蓋を整理し充分に陽光を受くる様にして置くと晝間は絶えず蜂蠟が溶解して濾器を通過し下の受器中に集るのである斯くして夜間に成ると蜂蠟は漸々冷却収縮するから容易に器中から取り出す事を得るので其翌朝に出来上た蠟餅を取り出し又新に種々の材料を投入して置くのである

日光製蠟器は是を使用する地方に依て其期間に多少の長短あるの不便があるが蒸氣製蠟器は此の不便がないのである蒸氣製蠟器は之れを使用するに格別の困

難はないが蜂蠟が溶出した残滓中には尙多少の蠟が残留する事があるから種々の材料は能く之を碎きて一晝夜程雨水に浸漬し然る後に用ゆると充分に溶解するのである

蠟餅は各種の製蠟器から採收した儘で販賣しても宜しいのであるが尙一度是れを精製する方が宜しいで之れを精製するには錫製若くは銅製器内に蠟を入れウォーターバス(熱湯)の高温にて乾燥せしむる器械化學者は常に使用す中にて溶かすのである之れを入るゝには成るべく多量の蜂蠟を一時に入れ徐々に熱する様にす方が宜しい急に熱すると蠟の分子が分散して水を吸収し灰白色の顆粒状と成つて著しく光澤を失ふのであるから甚だ市價を減却するのである尙此精製に付き注意すべき事は鐵製の器具を用ひざる事と鐵氣を含む泉水を用ひぬ事である即ち鐵氣は凡て蠟をして汚染せしむるのである

蜂蠟は種々の型に入れ形状を作るに製蠟器の受器内に型を置き其儘冷却せしむるも宜しいのである或は精製後の者ならば型を能く水にて濕し然る後熔蠟を注入するので乾燥した型其儘に蠟を入るゝと冷却後蠟が固着して離れぬ事がある

のである型は一貫目入又は二貫目入とかに製作し置く時は種々の點に於て便利である

製蠟材料は追々に貯蓄し置き一時に製蠟を行ふ場合が多いので日光製蠟器は毎日是を溶解製蠟し得ると雖あるから兎角貯藏中に蜂蛾の害を受くる事が多いのである故に貯藏中は毎月二三回硫黄若くは二硫化炭素を以て薰蒸するの必要がある之れを怠ると有利の蠟分を消失するのみならず蜂蛾を自然に養成して蜜蜂其者迄も害を及ぼすものである

第十二章 蜜蜂の衛生及害敵

一、衛生

本邦に於ける蜜蜂の飼養は未だ旺盛ならざるを以て病害に對して餘り猛烈なる被害等を聞かぬが歐米等にては甚だしき大害を受た事があつたのである併し今後とても本邦に於ける斯業の發達は各種の病害を發生し大恐慌を惹起する事もあらう凡そ蜜蜂の受くる病害は季候及食物の關係又は微菌の寄生等より發生する事が多いのである故に常に蜂を健全ならしめ窠箱は清潔ならしむる等飼養者の注意が周到なる時は決して病害は恐るべき者でないのである然るに此等衛生に重きを置かず僅かの一舉手一投足を怠つて可憐の蜂群も衰亡せしめ有利の事業を無爲に歸せしむるのである故に飼養者は常に注意して彼等の衛生を善良ならしめねばならぬのである

蜜蜂の病害中其重なる者は腐敗病と下利病との二種で其他は不良なる食物を喫して斃死したり觸角に異常を生じ各處に突貫して終に狂死したりする等の事が

あるが此等は蜜蜂単個の不養生其他の原因から惹起するので傳染性が無のである併し腐敗病及下痢病は頗る猛烈の者で特に腐敗病は非常なる急性で短時日の間に幾千の蜂群も削減せしむるの惨害を逞ふするのである

一、腐敗病

本病は「フアオルブルト」と稱する微菌の寄生より發生するもので窠箱内の汚穢不潔空氣の流通不良濕氣の過多死蜂の堆積腐敗等本病の發生を助生するのである而して本病は甚だしき傳染性の病氣で蜂の成蟲は勿論幼蟲及卵迄も感染するのである此の病氣に襲はると蜂群の勢力が衰弱し來り窠箱内を検すると仔蟲は房中に全體黒色に變じ窠房の蓋は凹入し小孔を生じて居るのである尤も斯の如き仔蟲房内の變状は或場合にも起るのであるから窠房の蓋を開き其内容物を檢し暗褐色の粘液狀で餡の如く垂下し且つ惡臭ある者は疑もなき腐敗病であるから一刻も其儘に放置すべからずである然らざれば其窠箱は勿論全窠箱を滅亡せしむるのである

本病に對する豫防法として固く清潔を守る事が肝要である而して若し本病の發

生を認めし場合は手及其他の器物を凡て一ガロンの水に入分の一オンスの昇汞を加へたる液にて消毒したる後にあらざれば決して他物を取扱つてはならぬのである

本病に對する救治法として簡單にして且つ確實なる方法は未だ發見せられぬのである故に若し本病が發生すれば晝間に適當の防止法を施したる後夜間に於て少し殘酷であるが斷然窠脾中の蜂を悉く燒殺すので決して姑息の手段を以て一時を姑塗すべきでないのである併し病勢未だ薄弱で著しき傳染を認めぬ様な場合には左の數法が幾分か効能があるのである

- 一、窠脾の全部を取り出したる空箱中に蜂群を閉鎖して幾何かの蜂の餓死する迄放置し後に善良なる食料を供給する事
- 一、斷食せしめたる蜂に石炭酸一、舍利別六百乃至七百分の割に混じたるものを以て飼養する事

一、少許の水揚酸液を蜜に混入して飼養する事

等である是が療法を行ふに先づ病害に罹りたる蜂群は急に新しき窠箱内に移し

三四日を幽閉し後に前項の方法と共に無害にして貯蜜豊満なる窠脾三四枚を興へて置くのである

一、蜂の下痢病

本病は主に冬期又は早春に發生する事が多いので此病に罹つた蜂は飛翔中又は他物に棲止して黄色の悪臭ある排泄物を多量に出すのである其甚しきに至れば腹部膨大して地上に爬出し斃死するのである

本病の發生する原因は種々あつて左の如き場合が多く其原因をなすのである

一、酸敗又は不良なる醱酵蜜を食したる時

一、水分多き蜜を多食したる時

一、林檎果液を多量に食したる時

一、蚜蟲の甘液を多食したる時

一、窠箱内の濕氣多く且つ寒冷なる季候に遭遇せしめたる時

等である故に冬期若くは早春に猥りに窠箱を開きて寒氣に觸れしめ或は雨水の浸入せる窠箱内に幽閉する等の事は固く避けねばならぬのである

本病に罹りたる蜂群は勉めて窠箱を溫暖乾燥ならしめ且つ天氣晴朗溫暖なる日に蜂をして充分飛翔せしむる等にて恢復し得るのである併し冬期及早春の天氣不良にして戶外に飛翔し能はざる時には窠箱は溫暖なる室内に入れ窠門の前方若しくは箱の兩側面に二三尺立方の金網を被ひ徐々に室内を溫暖ならしむると蜂は籠中に出て充分に身體を清潔にし且つ飛翔運動をなし夕刻に至り蜂は再び窠箱中に入るのである斯くの如くする事が二三日で又追々に室内の溫度を低下し蜂を寒氣に馴れしめたる後再び元位置に復して置くのである

二、害 敵

蜜蜂は彼等の食料として芳香甘味の蜜又は花粉を有し窠箱内に於て棲息する處から彼等の境遇をうらやみ且つ之を利用して害を加へ又は食料を掠奪せんとする害敵が頗る多いのである敢て害敵と稱せられざる迄も例の盜蜂即ち同じ蜜蜂仲間の貯蜜を窺ふの怠蜂も又一種の害敵と見做さねばならぬのである其他蜜蜂社會の恐慌を惹起するに尤も有力なる害敵は例の蜂蛾で其他多少の害を加ふる

ものは鳥類、蟻、鼠、蜂、蠅、食蟲、蛇類、胡蜂、蟻、蜂、鼠、蜘蛛等である。彼等は直接又は間接に勤勉なる労働家を傷害するのである。

一、盗蜂

石川や濱の眞砂は云々とは大賊石川五右衛門の辭世であるが石川流の盗賊は大抵單獨微少の盗賊で團體をなして掠奪をする様な種類と多少違つて居る。蜜蜂の盗賊と云ふやつは胡鼠的でなく團體をなして公然或群に攻撃を試みるのである。最も人類社會と雖も蜜蜂に類した盗賊なきに非ず。宜氣になつて弱い國を蠶食し終に隣國と戦争して散々敗けた結果泣面をして居る國もない事もないので、畢竟此等は盗賊たるの性質を同ふして居るのである。

蜜蜂は早春又は其他の蜜採收期の終りに於て野外の食量が漸く缺乏すると同族間を攻略して貯蜜を奪ふのである。爲めに弱者は多大の損害を受け退却するのみならず死傷算なく貯蜜は奪はれ食物は益缺乏すると云ふので、彼等は全然餓死するのである。此等攻撃を受ける蜂群は蜂王なき群とか又種々の原因から衰弱して來た蜂群に多いのである。

盗蜂即ち掠奪の起る原因は野外の食料缺乏を以て主とするか尚蜜を取り扱ふ際に之を暴露して蜂に之を味はしむる等も大なる誘因となるのである。故に蜜の取扱には寸時も油断なく注意して彼等の訪問を避けねばならぬのである。

盗蜂の掠奪が初まつて未だ早い中には先づ攻撃を受けたる窠箱の窠門は之を縮少して其上に粗い草を散布して置くとか又窠門の前面に硝子板を立て懸けて置くのである。斯くすると盗蜂は一寸様子が變てゐるから一時躊躇して居るのである。

其間に被奪蜂が相當の防禦準備が出来爲めに大害を受けぬのである。其他盗蜂防禦として左の數法を用ふるのである。

一、盗蜂の攻撃甚だしき時は被奪群を一時飼養場より十五六町餘の遠隔せる地に移す事

一、防禦の策盡きたる時は數日間暗室に入れ置く事。但し之を取り出すには夕刻に新しき場所に窠箱を移して窠門を狭め其前面に板を立てかけ置く事

一、盗蜂起りたる時は各窠箱の窠門を狭め各種の防禦器を置く事

第三十三圖



盗蜂防禦器

害敵

一、被奪窠箱の前位置に少量の蜜及花粉を入れたる窠箱を置く事斯くすると盜群は其蜜及花粉が減ずると共に追々正業に復するのである

二、蜂 蛾

蜂蛾は窠箱の内では仕事をしついで蠟蛾、蟻虫、トシ蟲等の名がある窠箱内を荒すは此蜂蛾即ちガレリヤ、メロネラ (*Galleria mellonera*) の幼蟲である蜂蛾には大小二種ありて其色は鈍灰色に淡色及暗色の縞があるので是れが木板上に静止して居る際は頗る認め難いのであるで蜂蛾は夜間飛翔し晝間潜伏し居るので夕刻になると彼れは飛出で、窠箱の内部若くは其周邊に産卵するのである卵は頗る微少で能く蜂の體にも附着し易く爲めに窠内に運搬せらるゝ事もあつて卵は直ちに孵化し褐色の頭を有する白色の仔蟲となり蠟、花粉及死蜂等を貪食するから速かに生長し糸をはき匣を造り其中から頭丈を出して窠脾を蠶食するのであるで彼等の繁殖が盛んであると窠脾の全體が悉く喰ひ荒されてしもうのである斯くの如く貪食を逞ふし大凡三週間を経過し充分に發育したる後に繭を造り更に又數日の後に成蟲となつて産卵を初むるのである彼等の卵から成蟲になる間は大凡六

週間位である蜂蛾は一ケ年中の發生は二回乃至四回で第一回は大種は四五月小種は五六月第二回は大種は七八月小種は八九月頃である其他は蜂群の強弱其他の狀況に依り時々發生して害を逞ふるのである

蜂蛾の蝕害を防禦するの最良法は蜂群をして常に強盛ならしむる事が尤も肝心である尤も人間と雖身體の弱い連中が常に病氣に罹り易き様な者で尙又朝鮮に於ける某國の如き者で朝鮮國王が若し強壯であれば某國の侵害を受けないし又蜂蛾が驅除せらるゝ様に痛い目にも合はなかつたであらう故に蜂群が強盛であれば例へば蜂蟲が發生しても蜂の相當防禦で擊退も出來るし又蜂蛾は決して其害を逞ふする事が出來ぬのである

兎も角も窠箱の不潔は蜂蛾のみならず各種の病害を惹起するのであるから窠箱は第一に常に掃除して清潔ならしめ若し窠脾内其他の場所に蜂蛾の仔蟲を發見したならば小刀の尖端又はピンセット等を以て直ちに之を除去し潰殺した方が宜しいのである或は不注意の爲めに甚だしく斯蟲の害に罹つた者は硫黄を以て薰殺するより外ないのである

歐米にては蜂蛾の爲めに窠箱内を荒され飼養者は少からぬ損失と苦心をしたのであるが種々研究の結果蜂蛾の害は全く飼養者が窠箱の取扱の粗漏不潔より起因するので防禦の法も又格別困難のものに非ずとの斷定を得たのである。蜜蜂の種類に依て蜂蛾の害を受くるの強弱がある特に我日本種は彼等に侵害され易いのである而して若し少しく蜂蛾の侵入を受くると我種は直ちに逃亡を企つるので實に管理者泣せである之に反して外國種は何れも是を防禦するに巧なのである併し一般に此等蜂蛾類の被害に付て觀察するに蜂王なき群とか掃除不行届の窠箱とかに尤も多く發生し慘害を逞ふするのであるから窠箱の構造を堅固にし其内外及周邊は常に掃除し清潔ならしめ且つ尤も蜂群を強盛ならしむれば何れの病害と雖も決して恐るべき者でないのである。

三、蜂 虱

赤銅色の縦二厘横三厘計りの龜甲形で裏面に六足ある小蟲の蜂體に寄生するので之を蜂虱と云ふのである特に蜂王に尤も能く寄生するやつで一蜂王體に十二匹位寄生して居るのが甚だしきは七十匹以上も附着し居る事もあつて此奴の寄

生を受くれば蜂は漸々に衰弱して斃死するのである此奴は蜂王の外雄蜂働蜂及出房前後の稚蜂にも附着する事があるのであるから能く注意して購入すべしである而して此奴に取り付かれた時は格別の驅除法がないから専ら蜂の衛生に注意し群の強盛を計るべしである殊に不潔は此蟲の發生に善良なる境遇であるから清潔法の勵行は云ふ迄もなき事である。

其他の害敵

胡蜂 蜜蜂の尤も恐るゝ害敵である胡蜂が一度窠門を窺ふと彼等は單獨又は強大の聯合軍を編制して攻撃するのである故に蜜蜂の飼養場附近は常に注意して彼等の窠又は飛翔して居るのを發見次第捕殺すべしである。

蟻 蜜蜂の食料たる貯蜜の御相伴に出掛るのであるから附近の蟻の窠を掘起して二硫化炭酸を注入するか或は窠箱の四本足の臺脚に土器に水又は殺蟲液を入れたるものを置くと蟻は土器中にて自然に溺死するのである。

其他食蟲虻、蜻蛉、蜘蛛、蝦蟇、蜥蜴、鳥類、鼠類、鼯鼠等より寒地にては大なる熊の御見舞を受くるのであるが是等は相當の防備を以て宜しく驅除すべしである。

蜜蜂飼養法 終

明治三十九年十二月十日印刷
明治三十九年十二月十五日發行

蜜蜂飼養法奥附

定價金七拾錢

不許
複製

閱者 八 嶽儀七郎

著者 前田邦寧

東京市本郷區森川町一番地

發行者 石川榮司

東京市京橋區築地二丁目二十番地

印刷者 河本龜之助

東京市京橋區築地二丁目廿一番地

印刷所 株式會社 國光社

發賣元

東京市本郷區本郷一丁目七番地

育成會

育成會發行

東京帝國大學文科大學長文學博士井上哲次郎先生
東京高等師範學校教授文學博士蟹江義丸先生共編

◎日本倫理彙編 全拾卷
定價金拾四圓
小包料金七拾錢

陽明學派集 全三冊 定價金五圓
小包料金四拾錢

古學派集 全三冊 定價金四圓三拾錢
小包料金四拾錢

朱子學派集 全三冊 定價金參圓
小包料金三拾錢

折衷學派集 全 定價金壹圓五拾錢
小包料金拾五錢

獨立學派集全 定價金壹圓六拾錢
小包料金拾五錢

東京市本區本郷一丁目

育成會發行

文學士 吉田靜致君著 倫理學講義 金壹圓七拾錢
小包料金拾五錢

文學士 久保得二君著 東洋倫理史要 金壹圓參拾錢
小包料金拾錢

關宮吉君 土屋信太郎君 共著 實用小學教授法 定價四拾五錢
小包料拾五錢

熱川平安治君 共著 新教育學 定價四拾五錢
郵稅金八錢

伊藤弘一君著 教育法撮要(女子用) 定價五拾五錢
郵稅金八錢
(文部省檢定済)

東京市本區本郷一丁目

育成會發行

伊藤弘一君著
女學校用

教育提要

定價五拾五錢
郵稅金八錢

棚橋源太郎君著
尋常小學校に於ける

實科教授法
講義要領

定價貳拾五錢
郵稅金四錢

堺榮之助君著

初學年兒童の教授訓練

定價金參拾錢
郵稅金六錢

齋藤廉三郎君著

教授の興味的基礎

定價參拾五錢
郵稅金四錢

山口三次君著

小手工科教材及教授法

定價金拾八錢
郵稅金四錢

東京市本區本郷一丁目

育成會發行

諸學校補習科。夜學會。最適良書

農科大學農業教員養成所教師 久田徹之助君

◎實業補習讀本

丙編
定價金廿四錢
郵稅金六錢

東京府第一高等女學校教諭 市川源三君著

◎高等立憲國民讀本

定價金卅錢
郵稅金六錢

同君著

◎立憲國民讀本

定價金廿五錢
郵稅金六錢

東京府第一高等女學校教諭 市川源三君著

◎女子補習讀本

正編
定價金廿八錢
郵稅金六錢

同君著

◎女子補習讀本

續編
定價金卅錢
郵稅金六錢

東京市本區本郷一丁目

育 成 會 發 行

石川榮司君著 教授 國旗 定價金參拾錢 郵税金四錢

石川榮司君著 教授 陸海軍 定價金參拾錢 郵税金四錢

石川榮司君著 教授 交通機關 定價金參拾錢 郵税金四錢

法學士 淺見倫太郎君著 中等 法制要義 定價金七拾五錢 郵税金拾錢

法學士 松浦鎮次郎著 中等 經濟要義 定價金五拾錢 郵税金六錢

東京市本區本郷一丁目

育 成 會 發 行

十六大家解說批評 增訂 倫理學 書解說 紙數壹千七百頁 小包料金廿錢

容內書本 倫理學の現在及將來 吉田文學博士 桑木文學博士 壺江文學博士 深作文學士 四部文學士 窪部文學士 中島總藏 桑木文學博士

十六大家解說批評 增訂 教育學 書解說 紙數壹千七百頁 小包料金廿錢

容內書本 教育思想の變遷 下田文學士 東澤文學士 大瀨文學士 中谷延治 熊谷文學士 久津見忠忠 黒田定治 小四文學士

東京市本區本郷一丁目

行發會成育

書用弟徒。場工。店商。社會。行銀

東京府第一高等女學校教諭 市川源三郎君著

◎大帝國讀本 前編 定價金廿五錢 郵税金六錢

◎大帝國讀本 後編 定價金廿八錢 郵税金六錢

◎大帝國讀本 續編 定價金三十錢 郵税金六錢

農業教員養成所 矢田鶴之助君著

◎實業補習讀本 甲編 定價金廿四錢 郵税金六錢

◎實業補習讀本 乙編 定價金廿四錢 郵税金六錢

東京市本區本郷一丁目

行發會成育

佐々木吉三郎君著 國語教授法集成 卷上 定價金圓八拾錢 郵税金拾五錢

故山廉妻行自述 配所殘筆 定價金貳拾錢 郵税金四錢

石川桂雨君共著 湘烟日記 定價金六拾錢 郵税金拾錢

片山熊太郎君著 庭草花栽培法 定價金五拾錢 郵税金八錢

德田實也君著 絹絲論 定價金參拾錢 郵税金拾錢

東京市本區本郷一丁目

育成會發行

育成會編 理科標本製作法 定價貳拾五錢 郵稅金四錢	育成會編 國定例話詳解 自一 至四年 定價三各拾六錢 郵稅各四錢	伊藤成子君著 小女子遊戲法 定價金五拾錢 郵稅金六錢	白井規矩郎君著 新式女子表情體操 二編 定價金廿五錢 郵稅金各四錢	岩崎元一君著 新案女子遊戲 手鞠と追羽子 定價金拾五錢 郵稅金二錢
------------------------------------	---	-------------------------------------	---	---

東京市本區本郷一丁目

育成會發行

東京府國語學校教授 尺秀三郎君著 こども 定價金五拾錢 郵稅金八錢	東京高等師範學校訓導 加藤末吉君著 學校と家庭との連絡 定價金廿五錢 郵稅金四錢	學智院教授 文學士 歴史談その折々 定價金六拾錢 郵稅金八錢	農學士八級儀七郎君閣 前田邦寧君著 蜜蜂飼養法 定價金七拾錢 郵稅金六錢	農學士高橋久四郎君閣 盧貞吉君著 蔬菜栽培法 近刊
---	--	--	--	------------------------------------

東京市本區本郷一丁目

齊成會發刊

米國桑名伊之吉君著

害蟲及益蟲

定價金九拾錢
郵稅金拾錢

農學士 石崎芳吉君著

養雞法

定價金五拾錢
郵稅金八錢

農學士 針塚長太郎君共
農學士 金子昌太郎君著

桑及蠶

定價金四十錢
郵稅金六錢

香月喜六君著

學校園設置法

定價金五十錢
郵稅金八錢

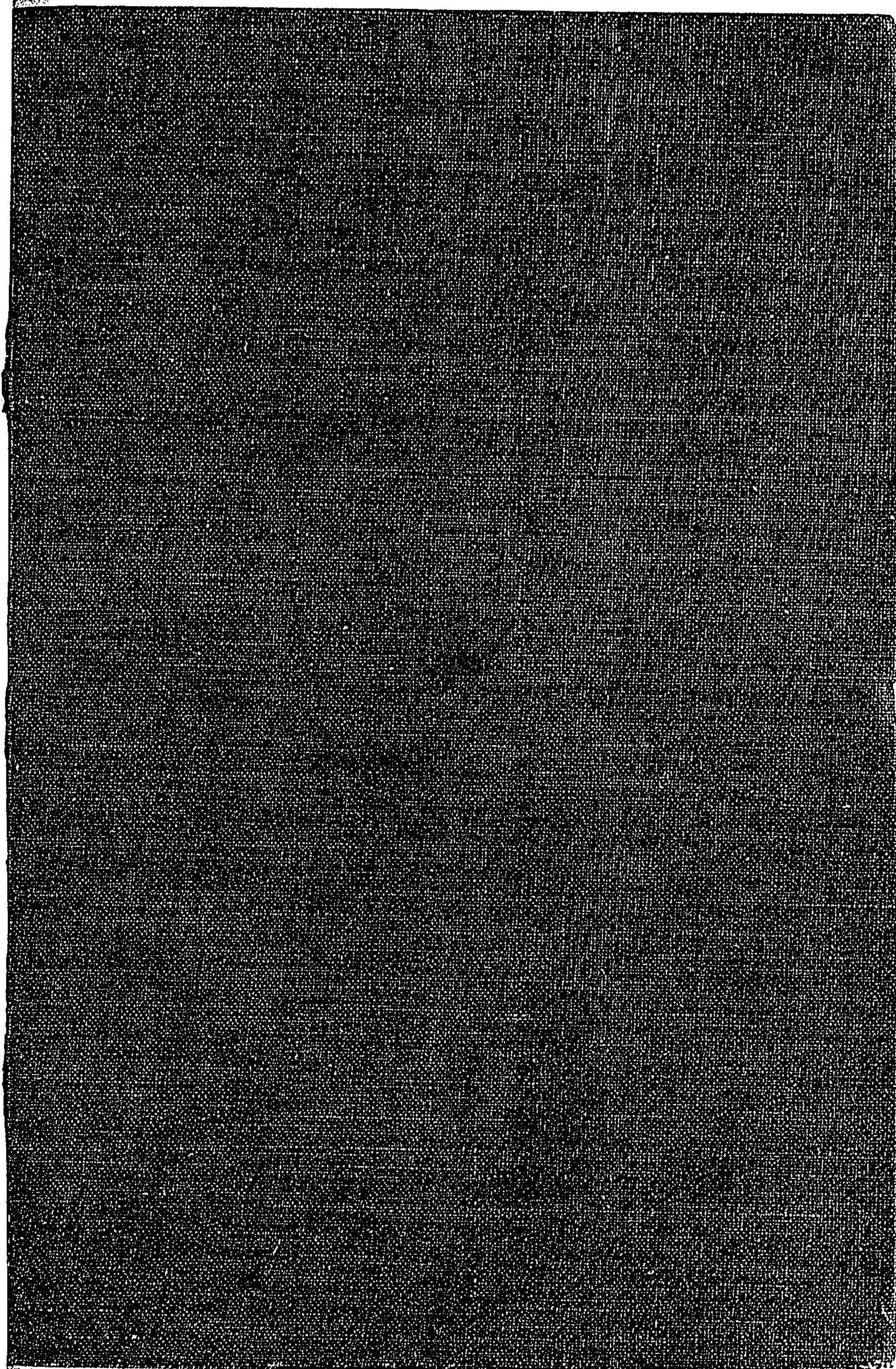
藥學士 慶松勝左衛門君著

家庭衣食住

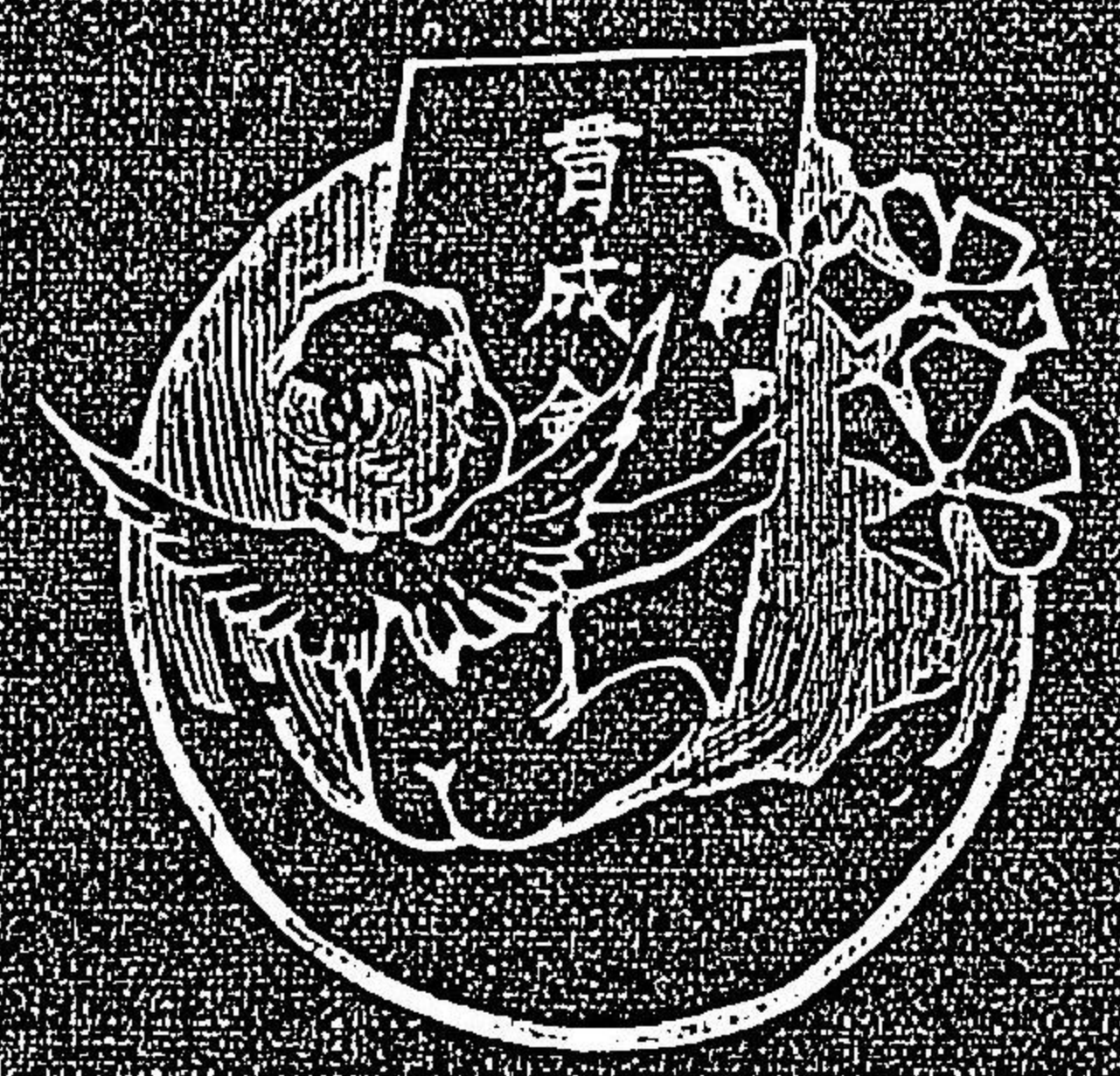
定價金五十錢
郵稅金十錢

東京本區本鄉一丁目

10
790



40
790



065079-000-9

40-790

蜜蜂飼養法

前田 邦寧/著

M39.12

CCD-0557

